

The 34th Annual Meeting of The Japanese Biochemical Society, Hokuriku Branch

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46124

『学会開催報告』

『第34回日本生化学会北陸支部大会』

The 34th Annual Meeting of The Japanese Biochemical Society, Hokuriku Branch

金沢大学医薬保健学総合研究域医学系 分子遺伝学
(日本生化学会北陸支部支部長・理事)

村 松 正 道

主要な生命科学研究の学術集会である日本生化学会では、支部会活動が盛んな事で知られている。北陸支部では年に一度生化学会会員及び所属の学生が集まりその研究成果を発表している。またさらに年に一度、様々なテーマでシンポジウムを行っている。今回の北陸支部の学術集会は、その年回とシンポジウムがジョイントした形で5月28日に同日に金沢大学宝町キャンパス内医学部記念館で行われた。

朝の9時から北陸支部会長（金沢大医学系 村松正道）の挨拶を皮切りに、大学院生の21演題行われた。北陸支部会ではできるだけ学生に口頭発表の機会を与えるため、すべての学生演題は口頭発表となっている。北陸支部では学生さんにプレゼンテーションスキルを磨く場をとして支部会を利用してもらい、さらに学生参加者のモチベーションをあげるべく、学生ベスト発表賞をもうけている。その効果があがったからかは不明であるが、総じて学生発表のレベルは高かった。実際北陸支部以外から招聘されたシンポジストから、北陸支部発表は高く評価された。また支部会ではdiscussionにも力を入れており、会場では発表後の議論の時間では、核心に切り込む議論が飛び交い多に盛り上がった。

午後に会員の一般講演が4演題おこなわれた。金沢大学内で支部会が行われたこともあり、4演題はすべて金沢大学からで、金沢大学内の新進気鋭の若手研究者が、以下のユニークな研究を紹介した。敬称省略 薬学系：倉石貴透；ショウジョウバエの自然免疫系、理工：春山隆充；ペルオキシレドキシンの高速AFM解析、医学系：赤木紀之；C/EBP ϵ と好中球分化、学際センター：目黒牧子；インプリンティングとnon-coding RNA。

シンポジウムでは、1人目は学内から原島愛先生（医学系）が抗糖化酵素Glo1のプロモーター領域の遺伝子多型について講演があった。招聘講師である理化学研究所吉田稔先生が天然活性物質を起点としてケミカルジェネティクスの歴史からその後の新展開を、東北大学 五十嵐先生がタンパク質のメチル化現象の制御とエピゲノム制御について講演いただいた。研修室で行われた意見交換会（懇親会）では、学生ベスト発表賞の表彰がおこなわれ、懇親会も盛況のうちに閉会となった。

以下に発表演題と講演者を示す（敬称主略、講演者のみの氏名を記載）。

学生演題

「ヘテロな系の高速AFM観察へ向けた高速AFMとTEMの融合・山田裕太郎（金沢大学バイオAFM）」「強い骨密度上昇作用を有するビタミンD誘導体の代謝様式の解明・遠山枝李（富山県立大・工）」「抱合代謝酵素発現出

芽酵母を用いたビタミンE代謝物抱合体調製技術の開発・高平梨可（富山県大・工）」「Spt3とTBPによるサイレンシング領域境界形成機構の解析・釜田和馬（福井大・院工）」「Involvement of Baf53a in Proliferation and Histone Acetylation of Embryonic Stem Cells・Bo Zhu（Kanazawa University, Med）」「A protein-protein interaction in bacterial magnetic organelle: TPR protein MamA interacts with magnetite biomineralizing protein Mms6・Hoang Viet Nguyen（金沢大・理工）」「代謝物・核酸デュアル応答型自己切断RNAスイッチの開発・内藤卓人（富山大・理工）」「c-di-GMP応答型リポスイッチのリガンド認識と遺伝子発現制御機構の解析・犬塚早紀（富山大・理工）」「Epsilon RNA plays a pivotal role in AID-dependent reduction of HBV transcripts・Lusheng Que（Kanazawa University, Med）」「梅肉エキスのジエチルエーテル抽出物によるインフルエンザウイルス細胞変性効果の阻害・上野佑斗（北陸大学・薬）」ほか11題

一般講演

「新規E3リガーゼSherpaによるショウジョウバエToll経路を介した自然免疫応答の制御・倉石貴透（金沢大・薬）」「ペルオキシレドキシンのオリゴマー形成とシャペロン活性の高速AFM解析・春山隆充（金沢大・理工）」「転写因子C/EBP ϵ の機能欠損による好中球分化障害のメカニズム・赤木紀之（金沢大学・医）」「脱凝集クロマチンを介したlong non-coding RNA, SNORD116HGによる遺伝子発現制御メカニズムの解明・目黒牧子（金沢大学学際科学実セ）」

シンポジウム

「抗糖化酵素の遺伝子発現調節・原島 愛（金沢大学医薬保健研究域）」「遺伝子発現制御に作用する天然活性物質の作用機構研究から見てきたもの・吉田 稔（理化学研究所）」「エピゲノム制御におけるS-アデノシルメチオニン地産地消機構の意義・五十嵐和彦（東北大学・医）」

